

防災に関する授業

本校の立地条件を考え、今年度は『津波からの避難』という点に力を入れて指導を行いました。まずは、気象庁から出された「津波から逃げる」というDVD教材を使い職員研修を行いました。津波の被害が大きかった児童への配慮等も考えながら、各担任が授業を組み立てました。

★ 防災教育のねらい ★

【低学年】

自分の命を守るために、教員や保護者など大人の指示に従いながら適切な行動ができる児童の育成。

【中学年】

災害の時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができる児童の育成。

【高学年】

様々な災害の危険を理解し、自他の命を守るために適切に判断し、主体的に行動でき、災害から立ち直るために、進んで他の人たちと協力し合える児童の育成。



DVD教材「津波から逃げる」を観ながら学習を進めました。



各学年（クラス）毎に、児童の実態や成長段階に合わせて授業を行いました。

第5学年2組 総合的な学習（防災教育）学習指導案

平成25年 1月23日（水）1校時

指導者 早坂 聖司

場 所 5年2組

1. 単元名 『津波から逃げよう』

2. 本時のねらい

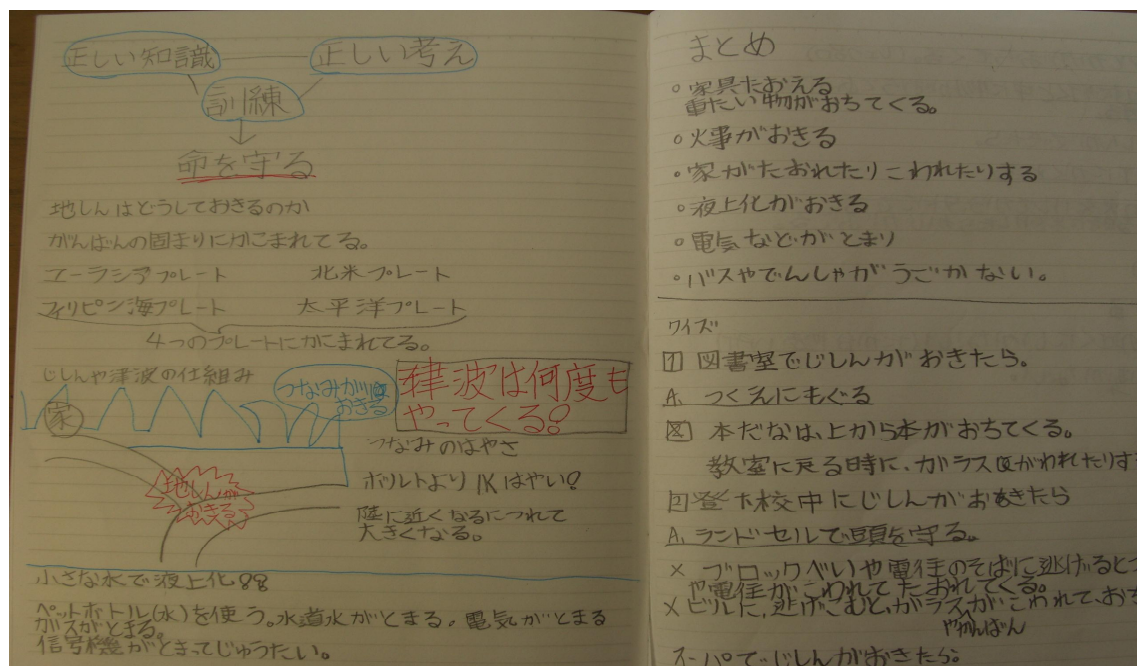
- ① 津波の特性について知る。
- ② 津波から身を守るための方法について考える。
- ③ 防災について自分が出来ることを考え発表する。

3. 指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1. これまでの避難訓練を振り返り，地震が起きた時の避難の仕方について確認する。</p> <p>岡田の立地条件を確認し，地震の後に起こる津波の備えが大切であることを知らせる。</p>	<p>まずは頭をしっかりと守り，情報を落ち着いて聞き，慌てないで避難する大切さについて再確認する。</p>
展開	<p>2. 本時の学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">津波から逃げよう</div> <p>3. 津波について予め知っていることを発表し合う。</p> <p>4. 津波の特性について DVD 教材を視聴しながら知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① とても速い→ 陸上のボルト選手と同じぐらいの速さ。 ② 何度も押し寄せてくる。 ③ 膝下ぐらいの高さでも押し流されてしまう。 <p>5. そのような津波から自分の身を守る方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波が来る前に避難しなくては。 ・できるだけ高い建物に避難しなくては。 ・津波が1度引いたからと言って油断してはいけないな。 	<p>津波の被害が大きかった児童も多いことから，児童の様子を見ながら授業を進める。</p> <p>教材を一時停止しながら，1つ1つの特性についてしっかりと押さえる。</p> <p>津波が押し寄せる前に，できるだけ海から離れ，できるだけ高い建物に避難することが大切だと知らせる。</p> <p>※ 地域で1番高い建物は岡田小学校である。</p>

	<p>6. 津波以外の災害も含めて、家庭での約束事を振り返り発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で家にいる時、大きな地震が起きたらどこに避難するの？ ・登下校中に大きな地震が起きたらどこに避難するの？ ・家族それぞれが外出先で大きな地震にあったら、どこに集合する約束なの？ ・それ以外の家族内での約束事があったら発表しよう。 	<p>阪淡路神大震災以降、震度5強以上の大きい地震は学校にいる時よりも、それ以外の場所にいる時の方が圧倒的に多いことを知らせ、自分で正しく判断し行動できることが大切であると知らせる。</p> <p>「わが家の防災カード」に記入させながら、不明な点は家庭で話し合わせる。</p>
まとめ	7. 本時の学習で分かった事、感想等をノートにまとめる。	津波からの避難について再度確認する。

【児童のノート】



授業を終えた児童が、学んだことを自主学習としてノートにまとめてきました。正しい知識と正しい判断、そして訓練を重ねることが命を守るということ。そして、地震や津波への正しい対応について自分の言葉として、しっかりとまとめられています。

